

写真提供：埼玉県教育委員会

資料名　子持勾玉

よみがな　こもちまがたま

時　代　古墳時代

大きさ　長さ約12cm



出土場所　行田市　北大竹遺跡

解　説　大型のまが玉の側面や背・腹に小さな突起をつくりだしたものをいいます。古墳時代の5世紀中頃に出現し、7世紀後半まで出土例があります。突起の数や形はさまざまで、省略化が進むと突起は失われていきます。子持勾玉は突起を付けることで玉のもつ力をより強めようとしたものと考えられています。

（参考：埋文さいたま 66 号）

子持勾玉には素材や大きさ、色の違いはあるのかな？調べてみましょう。